

■小谷正一 イベントの企画や球団の創設の実績を経て、契約によって企業と対等の個人プロデューサーとなった最初の人物。

こたにまさかず

明治天皇没・1912＝ 兵庫県姫路市竜野町で、陶器問屋砥田家の長男に生まれる。

母が懐胎して体調を崩したため、父の妹小谷たねに預けられ、

誕生した弟が養子となるべきところ、あまりに小谷家で可愛がっていたため、そのまま育てられ、

本格政党内閣1918＝ 6歳： 姫路市立城南小学校に入学、

照れ屋でシャイな気質で、成績抜群であるが、波も大きく、

原敬首相暗殺1921＝ 9歳：

関東大震災・1923＝12歳： 旧制姫路中学校に進み、

世界恐慌・・・1929＝17歳：

海軍軍縮条約1930＝18歳： 早稲田第二高等学院に入学。級友と俳句の同好会をつくって、ユーモアある批評解説が生まれ、

満州事変・・・1931＝19歳：

五一五事件・1932＝20歳： 早稲田大学文学部国文科に進んで、

高島砲術・・・1834＝22歳： この年実家で誕生した五番目の弟時雄と親しくなっていくぼう、下宿先でりえと知合う。

滑稽+人情本 1835＝23歳： 卒業。虚弱体質で兵役免れ、大船の松竹脚本研究所に就職。正式に養子となり、小谷姓に変わる。

二二六事件・1936＝24歳： 紹介を得て、_大阪毎日新聞に入社し事業部に配属、臨時採用の井上靖と同期生で親しくなっていく。

日中戦争始・1937＝25歳：

健保+総動員 1938＝26歳： 毎日音楽コンクール大阪予選で、バイオリニスト辻久子を知り、ステージパパ元祖とでもいえるその父吉

之助に魅せられ、久子売出しの事業計画を提出、粘って周囲を説得し、美容院などを奔走して売込み、

第二次大戦始1939＝27歳： *中之島公会堂でのリサイタル開催に漕ぎつけ、大成功。

大政翼賛会・1940＝28歳： 毎日新聞主催の大阪[2600年記念大美術展]・京都[日本画大博覧会]の責任者に選ばれ、いずれも大成功。

日米開戦・・・1941＝29歳：

創価学会検挙1943＝31歳： 事業部が社会部・学芸部と合併し、報道部になり、念願の社会部記者となるが、

敗戦・・・1945＝33歳： 戦後、事業部が復活し、副部長になるも、左遷に等しく鬱々していたところ、

新憲法公布・1946＝34歳： 先輩に誘われ、*系列の夕刊[新大阪]創刊のため、報道部長として出向。次々と企画を打出して実現に奔走

、創刊号から評判になる。編集局長黒崎貞治郎を頭目に、大森実らまさに梁山泊が形成されて行く。復員した

将棋の升田幸三が姿を現すと、木村名人との対局を実現し、世間を驚かすなど、ヒット続きで、

新憲法施行・1947＝35歳： 闘牛の興行を打診されると、現地調査してのめり込み、さまざまな法的・物的障害を乗り越えて、実現に漕

ぎつけるも大失敗に終わるが、これに刺激を受けた井上靖が11年ぶりとなる小説「闘牛」を書上げるなか、大学

者ら5人を顧問に迎えてまたも世間を驚かせ、{欧州名作絵画展}を成功させて、闘牛の欠損を一気に解消。

極東裁判決・1948＝36歳：

三大事件・・・1949＝37歳： 黒崎が東京本社社会部長に栄転、この年起きた下山事件について毎日のみ「自殺説」をとり、以後揺るがず。

*小谷を主人公とする「闘牛」が芥川賞となって、その後の井上靖の作家人生の成功を導くことになる一方、

正力松太郎が毎日新聞社長本田親男を訪ねてきて、プロ野球新球団創設を打診してきたことから、社長の意向

で、泣く泣く[新大阪]を離れ、毎日新聞大阪本社事業部長とされ、準備委員会事務局長に据えられ、

朝鮮戦争始・1950＝38歳： 転変の末、{毎日オリオンズ}を設立、結果としてパ・リーグ創設に一役買うことになり、有力選手多数を

引抜いて最初の優勝チームになるも、かえって非難を浴び、赤字経営になるが、またも社長命令で、

独立回復・・・1951＝39歳： 民間ラジオ放送解禁による新日本放送(毎日放送)創設のため、放送部長兼営業部長として出向。編集総務

の高橋信三の支えのもと、音響効果のトップ和田精を引入れ、電通社長吉田秀雄と会見して営業部長向き人

材派遣受け、放送部長専任になり、部下にさまざまなクイズ番組編み出させ、電通の支援もあって、スポン

サー獲得にも成功、民間トップを切って放送開始に持込む。さらに、野球や株式の実況中継を始めて好評、

ライバル朝日を出し抜いて、世界的バイオリニスト・メニューインの独占放送まで実現するも、

マーデー事件・1952＝40歳： 周囲もいぶかしむなか、毎日を退社し、復帰約束していた古巣[新大阪]の常務取締役編集局長になるが、

読売の大阪進出のなか、漫画家サトウ・サンペイの発掘ほか、様々な企画を打出すも、部数は激減、黒崎の

社長復帰を目論むも失敗、矢折れ刀尽きて、ついに退職。

TV放送始・・・1953＝41歳： 身辺整理し、一家で上京。横浜鶴見を終の住処とする。

自衛隊発足・1954＝42歳： 〔ビデオ・ホール〕設立に参加、国交無いソ連から世界的バイオリニスト・オISTRAフの招聘に成功、

大きな収益あげ、「呼び屋」といわれるも、パントマイムのマルソーはじめ、以後の興行は芳しくなく、

国連加盟・・・1956＝44歳： 設立準備中の大阪テレビの総合企画室長に招聘されるも、開局するや退社し、

なべ底不況・1957＝45歳：

インスタメン・1958＝46歳： 迎えられるように電通に入社。以後、海外出張も含め、常に吉田社長の側におり、出世コースを歩むが、

安保闘争・・・1960＝48歳：

TV宇宙中継始1963＝51歳： 吉田が急逝、衝撃を受け、退社。

東京リンピック 1964＝52歳： 黒崎が定年退職。

いざなぎ景気1966＝54歳： 個人事務所{デスクK}を設立、電通の顧問的役割を担い、

大阪万博・・・1970＝58歳： *大阪万博の住友童話館と電力館の総合プロデューサーを務めたが、

石油ショック1973＝61歳：

クアランゴール事件1975＝63歳：

貿易摩擦問題1980＝68歳： {デスクK}最後の社員宮下真が「国際女性スポーツ会議」開催成功を皮切りに、次々手掛けるのを後見し、

中曽根内閣・1982＝70歳：

・・・1984＝72歳：

竹下内閣・・・1987＝75歳： 向丘遊園での{蘭・第12回世界会議}開催企画を持ち込まれて成功に導くなどするも、_急速に衰え始め、

多額の借金を残して、

バブル崩壊・1992＝80歳： 心不全で、_没した。

早瀬圭一「無理難題”プロデュース”します」、